

美世志会に対する不当解雇を許さず

解雇撤回闘争を断固としてたたかう緊急声明

本日、JR東日本は、美世志会6名に対して労働者にとって死の宣告にあたる「懲戒解雇」という不当処分を発令した。

JR東日本大宮支社長名の発令通知によると「会社施設内において当社社員（当時）に対し行った行為が、強要の罪にあたるとして、平成19年7月17日、東京地方裁判所にて有罪判決を受けた。この行為は、職場秩序を著しく乱し、また、会社の信用を著しく失墜せしめたものであり、社員として極めて不都合であるため」となっている。

こんな紙切れ一枚で、こんな無味乾燥な文書で労働者の生首を切られてたまるか！職場秩序を乱したという事実がどこにあるというのか！会社の信用を失墜させた事実がどこにあるというのか！われわれは、この不当解雇を撤回するために美世志会の仲間とともにたたかう。JR総連に結集する仲間とともにたたかう。すべての労働者と連帯してたたかうものである。

そもそも、「えん罪JR浦和電車区事件」は、JR東労組・JR総連を解体することを目的に、ありもしない事件を警視庁公安二課がでっちあげた国策捜査である。しかも、梁次さんを首謀者に仕立てあげて7名が共謀して吉田某を退職においこんだとする検察側のストーリーは、大澗さんと梁次さんの量刑が逆転してしまったことによって完全に崩されているのだ。

それにもかかわらず、JR東日本が解雇という不当きわまりない処分攻撃に打って出てきたのは何故か。それは、JR東労組の労働運動を圧殺し、御用組合化するといった明確な意志が貫かれている。じっさい、組合掲示の一方的撤去など、組合運動に対する圧殺がはじまっているという。われわれは、御用組合をつくるために命を賭けて国鉄改革の闘いをしてきたのではない。労働組合を会社の従属機関にしてはならない。

軌を一にして「窃盗罪」をでっち上げられたわがJR東海労の組合員も書類送検された。これは、JR総連傘下の労働組合を「不法者」「テロリスト集団」のレッテル張りをし、最終的に解体しようとする策動に他ならない。警察・検察、そして司法当局までもが美しい国＝戦争のできる国にするという国策にしたがって闘う労働組合を弾圧しているのだ。そして、その中で己の利害と相俟ってJR総連破壊に暗躍しているのが、誰だろう、わがJR東海葛西敬之会長だ。

われわれはしっかりと敵を見据えて団結を強化する。一切の弾圧を跳ね除けて労働者の未来を切り開くために断固としてたたかう！

2007年8月30日

JR東海労働組合
中央闘争委員会